

マントヴァ、Mantova

ミラノを州都にもつロンバルディア州の南東の端に位置するマントヴァ県。その県都マントヴァの旧市街は3方を湖に囲まれていて、対岸から見る街は「湖に浮かぶ中世の都」でとても幻想的です。2008年に同じ県下のサッピオネータとともにユネスコの世界遺産に登録されました。

マントヴァは芸術家を保護したゴンザーガ家のもと、15、16世紀にルネッサンスの1つの中心地になったと言われています。今でもマントヴァの街を歩くと確かにその栄華を知ることができます。代表する芸術家は画家のマンテーニャと建築家で画家でもあるジューリオ・ロマーノです。ゴンザーガ家の宮殿であるドゥカーレ宮殿は、今は博物館になっていて、美しく装飾された数え切れないほどの部屋に、多くの芸術作品が展示されています。宮殿に隣接するサン・ジョルジョ城にはマンテーニャの傑作「結婚の間 (Camera degli Sposi)」があります。この部屋に入れる人数は1日1500人に制限されているようですが、全くその気配は無く問題なく入れます。ジューリオ・ロマーノの仕事はこのドゥカーレ宮殿の他、ドゥオモで見ることができます。そしてその代表作であるテ宮殿 (Palazzo Te) は2キロほど歩いて旧市街を出たところにあります。

写真：



マントヴァへはロゴレド駅から列車で1時間50分、料金は8.75ユーロです。朝の9時台に列車がないので、8時半か10時半の列車になります。帰りも4時台と6時台には列車がないので、5時半の列車となってしまいます。5時半に出て、ロゴレドに着くのは7時半過ぎで、サンドナートのアパ

ートまで戻ると 8 時過ぎになってしまいます。ですから、マントヴァは見所も多いので、思い切っ
てマントヴァに 1 泊も考えて良いと思います。

マントヴァの駅からは歩いて観光できます。サンタンドレア教会、ロトンダ、ラジョーネ宮のあるエ
ルベ広場までは、歩いて 10 分足らずですし、しかも、マントヴァのメイン通りなので、ウィンドウ
ショッピングしながら歩くと直ぐにつきます。



エルベ広場から、ドゥカーレ宮殿、ドゥオモのあるソルデッロ広場までは、アーケードを通ると直ぐ
です。どちらの広場にもカフェが店を並べていて気持ちの良い広場です。



このエリアにテ宮殿以外の観光の見所は集中しています。特に、ドゥカーレ宮殿にある博物館は必見
です。ローマ時代の石碑、彫刻、ルネッサンス時代の彫刻及び数え切れないくらいの絵画とフレスコ

画が展示されていますが、それよりも興味深いのは、「結婚の間」を初めとする宮殿の部屋を見ることです。宮殿とサン・ジョルジョ城はつながっていて、「結婚の間」はサン・ジョルジョ城にあります。従って、通常の見学コースを外れますので注意が必要です。また、「結婚の間」では壁に描かれている家族の肖像に目を奪われて、天井にある丸絵を見逃さないようにしてください。家族の肖像よりもすばらしいものと感じました。もちろん、宮殿とお城の建物構造といくつかのきれいな中庭も見事なものです。入場料は6.5ユーロですがそれ以上の価値はあります。但し、残念ながら、写真撮影は出来ません。



ドゥカーレ宮殿とサン・ジョルジョ城の先は湖が広がっています。湖の手前は公園になっていますので、ここで一休みしても良いと思います。湖めぐりの遊覧船はここから出ています。



このエリアからテ宮殿までは、歩くと20分くらいありますが、マントヴァの古い街並みを見ながら歩けば時間がたつのも忘れて苦にならないと思います。この街には教会の塔や宮殿以外に大きな建物はありません。このあたりが世界遺産登録の決め手になったのだと思います。



テ宮殿も、ドゥカーレ宮殿と同様に宮殿全体が博物館となっています。もちろん、ここでも興味深いのは、宮殿の各部屋の見学です。テ宮殿は、ドゥカーレ宮殿の芸術性とはちょっと違い、どちらかというと、漫画チックな絵が多いと思います。巨人の間の巨人の絵は迫力満点です。建物や中庭も非常にきれいです。ここも、残念ながら、写真撮影禁止です。



私は、ロゴレド発 10 時半の列車でマントヴァ着は 12 時 20 分頃でした。それから、途中で軽い昼食をとったり、公園や湖で短い休憩はしましたが、午後 5 時半の帰りの列車まで約 5 時間ほとんどフルに動き回っています。特に、博物館を 2 つ見ているので時間がかかります。従って、5 時間は最低限必要だと思います。私と同じ列車で来たイタリア人の団体が、帰りも同じ列車でしたので、この 5 時間コースは標準なのかもしれません。世界遺産に登録されたためか、他の都市に比べて観光客が多いのですが、観光に加えて明るい雰囲気のある街並みは、ひきつけられるものがあります。